

# 2015年度教師海外研修(ガーナ) 研修報告書

|     |            |    |       |
|-----|------------|----|-------|
| 学校名 | 名古屋市立笹島中学校 | 氏名 | 野口 哲平 |
|-----|------------|----|-------|

## 1. 現地研修に対する各自の目的 とその達成度

### (特に、現地研修の経験を生かす授業実践に資することについて)

現地研修に対する目的は、発展途上国の現状を知りたいという事で参加した。現地の人の声を聞き、その土地ならではの臭いや風景を感じ、考え方や課題を知る事ができたのでとても良い現地研修だった。

一番の目的である発展途上国の現状ですが、農村・商社・研究所・役所・ボランティア・JICAといった幅広い団体の方から聞き取ることができたので、書面ではなく、実際経験から授業を作ることができようになるので、80%満足できる内容を知ることができた。不足分は、私の語学力がまだ乏しく、たくさんの聞き取りができなかったことが10%、準備がまだまだ足りなかったのが10%だった。

授業実践の時に生かしたいと思うことは、各団体で考え方や課題が違うこと、教科書やインターネットにあふれるステレオタイプとガーナは違うということを丁寧に伝えていきたいと思う。そのために、アクティブラーニングの形で、生徒がガーナについてのイメージを話し合ってもらい、その後で、実際はこういう風なのだよということを伝えて理解を深めていこうと思う。

## 2. 訪問国から学んだこと (気づいたこと、わかったこと、大切に思ったことなど)

### (1) 柱1「訪問国に肯定的に出会う」という観点から

肯定的に出会うと言っても、国内で調べているだけでは不安があるために100%肯定的にはなれないということが分かった。ガーナでいえば、治安や飲料水の不安、語学における意思疎通ができない部分など、知らないことから起こる不安から肯定的になれないと思った。

しかし、ガーナについて調べ、JICAの体験報告や自分のバックパッカーの体験を統合していくうちに、興味や疑問点がわいてきて、肯定的な気持ちになっていった。

肯定的に出会うためには、「日本国外に行った経験×事前に訪問国について調べる」…ということが、重要になってくることが分かった。また、一緒に行く仲間との連携がとれると、いっそう垣根を低くして取り組むことができることが分かった。

### (2) 柱2「日本と訪問国とのつながりや同一性を理解する」という観点から

まずは、日本について深く見識を深めておかななくてはならないなと思った。ただ、何となく知っている日本では、繋がりや同一性を理解する上で上辺だけになってしまうからである。JICAの言う国際理解とは、『海外のことを知る』から、『自分の地域のことをよく知る』という考えに変わってきていると言うことを事前に教えてもらっていたので、地域理解を深めた上で参加できたことが良かったと思う。

現地に入る前に、書籍やインターネットでガーナについて調べることで、国内においてもつながりや同一性を知ることができたが、それはデータに上がってくる内容のみなので、真の理解という意味では物足りなく思った。その足りないと思った部分を訪問することで補完する形になったと思う。

現地では、事前に調べた内容と同じことや全く異なっていることがあった。特に国民性については、実際に来ないと同一性や異なる点に気付けなかった。また、市場にあふれる車・電化製品やODAについて、つ

ながりがとても深くなっていることに気付けたことが良かった。

### (3) 柱3「共通の課題について共に考え・共に越える」という観点から

共通の課題があっても、国民性や国の発展状況・国の物理的な距離から「共に考え・共に越える」ということは容易ではないことが分かった。

容易ではないとは言いましたが、ガーナ人を日本人にしてしまえば容易になるのですが、それでは「共に」ではなくなってしまいます。まずは、国民性的な部分をどのように歩み寄っていくのか、お互いにどんなことを望んでいるのかを知らなくてはならないなと思った。また、そのために、どれくらいの労力を覚悟できるのかも確認し合わないといけないと思った。

一方的な想いや支援は、結局はうまくいかなくなってしまうということが分かったことが最も価値のある体験だったと思う。お互いがうまくいくためには、教育だけではなく経済や産業や生活の基盤となる社会資本、長い歴史から生み出される国民性を理解し合わなくてはならない。そのための時間や手間は、何度も何度も継続的に行わないといけないと思った。

### 3. JICAの国際協力事業の「良い!と思ったところ」と「今後あるといいなと思う視点」

支援のあり方が、段階的であり継続的になっているところが「良い!」と思った。

「今後あるといいな」と思ったのは、地元の人たちのやる気を上げていっても、JICAの人がいなくなってしまうと徐々に減退していってしまう状況があるのではないかとこのところを何とかするというところがある。もうされているのかもしれないが、そのプロジェクトの受け入れる側の責任者を集めて、定例会議ができたらいいのではないかと考えた。

研修で、熱意のある現地の方々も多くいたので、その人たちが横や縦でもっとつながる機会があると、よりいっそう現地の熱意ある人が助け合えるのではないかなと思った。それは、今回の研修で知り合った私たちのメーリングリストのように集まらなくてもできる取り組みでもいいと思った。電氣的な部分で難しいなら、日本の学校がやっている文書交換(学校間の郵便)なども参考になるのではないかなと思う。

### 4. 訪問先ごとの「感じたこと」や「学んだこと」

※別掲

### 5. 印象に残る写真2点とその解説

●写真1… [DOK\_4054]

◇キャプション：ガーナと日本の架け橋…野口研究所のソーラーパネルプロジェクト

◇解説文：ガーナと日本の技術者によって成立した野口研究所の太陽光パネルのプロジェクトである。ガーナで仕事をする日本の技術者の苦労、ガーナ人の仕事に対する気質が聞き取ることができた。



●写真2…ファイル名 [KEN\_0246]

◇キャプション：これがキャッサバだ…エサァーチレの農場の作物を見学

◇解説文：キャッサバは、教科書に掲載されているメジャーな作物だ。しかし、その味、重さ、作る環境を体感することはできない。この研修はそれを感じることができる。粉っぽいイモのような味で、これをすりつぶして食べる。なるほど。



## 6. 来年度参加する先生へのアドバイス（持ち物、必要な準備、学びの視点、注意事項など）

研修に挑むに当たって、念頭に置かなくてはならないのは準備期間と時間が非常に少ないということです。この時期は、ちょうど学期末の処理が重なるので思った以上に時間がとれません。前回言った人に話を聞いたり、作業を分担することで時間を有効に作り出してください。

荷物は、80～100Lサイズがあるといいです。箱自体重くなると大変なので、私は軽くて大きいものをレンタルしました。20日で1万円ほどです。着替えは、ドライタイプが洗ってもすぐ乾くので良かったです。連泊するホテルの初日に洗うと衣服が2/3ですみます。正装はクールビズ+ネクタイくらいで大丈夫そうです。

メモをしながら、写真を撮ることが難しいです。外国語が堪能な方の負荷が多くかかります、他の人が聞き取りの方が欲しい写真などは事前に聞いて撮影しておくといいです。デジカメは、夜景対応型が良いと思います。室内でも電灯がなく暗い場所が多いからです。動画も多く撮るので、バッテリー持ちのいい自社ブランド予備バッテリーを1つ用意すると良いです。

## 7. その他全般を通じての感想・意見など

事前研修をすることで、不安に思っていること、自分に欠けていることを見つけることができるので、少しずつ不安が解消できたのが良かった。また、自分の実力不足で現地での情報収集がうまくいかなくても、次にいかすべき課題が分かるので失敗も経験につながる。また、現地に入ることで、日本にいるときに得た情報を更新できることがとても良かった。

ファシリテーターの方を見ていると、1回1回の講座や行程について、事前に多くの準備や積み重ねがあつてやっと成り立っていることが分かった。おそらく、失敗しないようにより良いものを準備していても、うまくいかないことがあるのだとも思う。そこで、さらにいいものを作るように努力し続ける姿勢が大事なことを学ばせていただいた。

ファシリテーターと言う役職があることをしれたことはとても良かった。リーダーではなく、先生でもなく、参加者の活動を促進させる役割というのは、全中学社会科で取り組んでいるアクティブラーニングの考え方に近いので参考に授業作りに取り組んでいこうと思う。

以上